

線虫がん検査『N-NOSE』実用化に向けたトライアルに 全国の自治体で初、久留米市と小郡市が参加

生物の嗅覚を活用することで「簡便」・「高精度」・「安価」を実現する新しいがんの1次スクリーニング検査『N-NOSE（エヌノーズ）』。開発元である株式会社 HIROTSU バイオサイエンス（本社：東京都港区、代表取締役：広津崇亮、以下 HBS）は、来年1月の実用化に向け、運用の最終確認としてのトライアルを10月より開始します。当トライアルに、自治体として初めて久留米市・小郡市が参加することとなり、福岡県を含めた四者合同の記者発表を行いましたのでお知らせいたします。



10月1日（火）の四者合同の記者発表会。久留米市役所にて
（写真左より）小郡市 加地市長、HBS 広津代表取締役、久留米市 大久保市長、福岡県 初田次長

今回のトライアルでは、開発初期段階より支援をいただいております久留米市と小郡市の職員約120名にご協力いただき、検体を集めるところから検査をして結果を戻すまでの一連の過程に問題点がないか最終確認をいたします。HBSは、将来的に『N-NOSE』がさまざまな団体の健康診断に組み込まれ、一般市民の方々が受診するようになることを想定し、慎重に検証を重ねてまいります。

(以下、会見時における両市長と当社代表取締役のコメントより内容要約)

■久留米市 大久保 勉 市長

誰もががんになる可能性がある昨今、早期発見は極めて重要で、その道具として線虫に注目している。線虫がん検査は、既存のがん検査のように仕事を一日休んで受けに行く必要がなく、通常健康診断の尿で検査できるため、非常に画期的。ただ、あまりに革新的すぎて医療制度にはなじみづらい面があるかもしれない。そこを地方自治体がしっかりとサポートし、社会的な信頼性を高めていきたい。

■小郡市 加地 良光 市長

線虫でがんを早期発見する研究には当初より大変関心を持っていた。選挙の際のマニフェストにはがん早期発見プロジェクトに取り組みたいという項目を入れ、市民から高い期待が寄せられていた。広津氏の線虫がん検査を実用化するという強い意志に共鳴している。今回のトライアルには実際の検診に沿った形で職員が参加するので、新たな課題を見つけて問題提起や解決のための協力を行っていきたい。

■株式会社 HIROTSU バイオサイエンス 広津 崇亮 代表取締役

がんに対する大きな課題は、早期発見が難しいことと、がん検診受診率が上がらないことであると考えている。がん検診は、まず入口としてリスクが高い人をふるい分ける検査があること（1次スクリーニング）が理想。これには“安価”と“高精度”を両立することが大事だが、既存の検査では難しかったので、生物の嗅覚に着目。機械では実現できないレベルの“安価”かつ“高精度”の検査を実現することができた。

* 『N-NOSE』は株式会社 HIROTSU バイオサイエンスの登録商標です。

<報道機関お問合せ先>

株式会社 HIROTSU バイオサイエンス [担当：永溝、日暮]

〒107-0062 東京都港区南青山 2-24-11 フォーラムビルディング 2F

電話：03-6277-8902 E-mail：press@hbio.jp